

2019 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録

(観光科・鉄道科・テーマパーク科・エアライン科・語学集中科・デュアル科)

日時	2019 年 8 月 2 日(金)	場所	8 号館 3F ホテル実習室	進行	湊	記録	檜崎他
出席者	企業側(7 名)敬称略・順不同						
	学科	企業名・団体名				名前	
	観光分野	(一社)日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会				児玉 靖生	
	観光科	東日観光(株)				酒井 大之	
	鉄道科	(株)日本旅行				只隈 修一	
	テーマパーク科	(株)東京ドーム				上村 純子	
	エアライン科	(株)旅行綜研				石井 光彦	
語学集中科	(一財)成田国際空港振興協会				岸本 達也		
デュアル科	(株)エコーパートナーズ				山田 将人		
学校側(9 名) 矢口、矢野、立石、中山、石神、茂野、湊、栗原、檜崎							
議事録	<p>[全体会] 進行湊が委員会を開会した。</p> <p>・新任委員紹介(湊) 一般社団法人日本旅行業協会関東支部千葉県地区委員会 委員長 児玉 靖生様 株式会社エコーパートナーズ 課長 山田 将人様</p> <p>・校長挨拶(矢口) 国の動きとして、昨年は「専門職大学」、今年度は「高等教育の修学支援新制度」と非常に動きが顕著である。修学支援の新たな制度は経済的理由で進学を諦めることがないように給付型奨学金と入学金・授業料減免を 2 本柱とした施策である。当校も先月末に支援措置の対象となるため県に申請を行った。職業実践専門課程認定に教育課程編成委員会をはじめとして学内の取組、適切な情報公開等、しっかりと行っていくことが大事であり、真摯に取り組んでいきたい。</p>						
	<p>全体会議題「業界・企業の最新情報」</p> <p>児玉氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年オリンピック・パラリンピックを前に千葉県内でも各国の事前キャンプが行われる予定。前段としての国際大会のキャンプ地としても千葉が選ばれており、来年に向けて、輸送・宿泊関係の混雑が予測される。 ・インバウンドでは韓国から 700 万人、中国からが 800 万人と大半を占めているが、現在の韓国情勢等もあり、懸念される。 ・バス会社のコンプライアンスが厳しくなっている。 ・旅行会社では対面型のカウンター販売からインターネットを利用する WEB 業態を主力としてきている。 <p>酒井氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年オリンピック・パラリンピックに向けて、早くも宿やバスが押さえられてきている。バスに関しては国が抑えている部分もある。 ・団体旅行から個人旅行が増えていくなかで楽天、じゃらん、Expedia など OTA(Online Travel Agent)が主力になっており、カウンター販売が激減している。インバウンドにも Expedia 台頭の動きがある。 <p>只隈氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年 7 月 10 日~9 月 9 日はバス手配が不可となっているので、研修旅行やその他学校で例年手配しているものにも影響が出る可能性があるので注意が必要。 ・当該期間に関しては、当社も団体旅行についてもバスを使わない方法を検討しなくてはいけない。 ・どの業種でも話に出るのだが、中堅層がいないと聞く。若手育成も大変難しく、3 年勤務し、やっと形が出来てきた時期に辞めてしまう。 						

上村氏

- ・2020年のオリンピック・パラリンピックの影響を受け、1年間は例を見ないスケジュールになると想定する。テーマパークとして直接の絡みはないが、お客様の動きに対応していきたい。
- ・東京都の最低賃金が1,000円を超えた。(都内飲食店では現在も1,000円では働き手を探すのが困難な状況となっている。)東京都寄りの千葉県に住んでいる人はこの最低賃金アップを受けて、東京での就業を考えるなど人手不足となる可能性もあるのではないかと。

石井氏

- ・旅行会社への添乗員の派遣、航空会社への派遣を主に行っている。2020年のオリンピック・パラリンピックによる国内バス手配が不可となることで、添乗員活用について各社へ伺っているところ。
- ・クルーズ需要は非常に高まっており、アウトバウンド・インバウンドの双方向で集まっている。クルーズ対応の添乗員の育成を行っている。
- ・2020年はバス確保ができては運転手の確保が困難となる見込み。

岸本氏

- ・空港の案内は、「人手をかけずにいかにご案内できるか」となっており、情報端末を各所に配置し、案内対応する。加えてTV電話による対応も行い、補完する。
- ・空港トイレについては、全て改修完了しており、ハラルフードを提供する店舗も増えている。また、精神障がいのある方がパニックに陥った時に対応できるスペースの確保など2020年に向けて、「万人への対応」に向けて準備が進んでいる。
- ・トランジット旅行客等に対して、交通費のみを負担していただき、ボランティアガイドによる成田空港周辺の観光ツアーを実施している。
- ・事務方ではオリンピック・パラリンピック対応を行う業務が増えており、現在は人員不足となっているが、オリンピック・パラリンピック以降の経済情勢の落ち込みが予想されるため、積極的な採用も難しく、苦慮している。
- ・事務方ではオリンピック・パラリンピック対応を行う業務が増えており、人員不足となっているが、2020年以降のことが不透明なため、採用も難しく苦慮している。

山田氏

- ・成田空港で主にANAの地上支援を行っている。インバウンド対応のため、新たな航空会社受入要請があるものの人手不足のため、受け入れ困難。人手不足への対応として、保安検査の機械化、機体移動に利用しているトーイングカーのラジコン運用、リムジンバスの無人化等、一部運用/検討が始まっている。
- ・グランドハンドリングの現場で、技能実習生の活躍も進んでいるが、最低賃金アップの影響が懸念される。
- ・成田空港の第三滑走路増設された場合も人手不足が懸念される。技能実習生や再雇用者等も視野に入れ検討していく必要がある。
- ・航空業界では飲酒問題が取りざたされているが、グランドハンドリング従事者にも飲酒チェックを行っている。

業界の皆様方から有益な情報を伺うことができた。

学内では学生が自ら考えて取り組む卒業研究の授業があり、各ゼミの優秀な学生については、卒業研究代表者プレゼンテーションを行う予定である。今までは学内のみで行っていたが、機会があれば委員の皆様方にも聴講いただくと学生の励みになるため、検討していただきたい。

(卒業研究代表プレゼンテーション:2020年2月21日)

[分科会] 観光科・鉄道科・デュアル科

進行矢野が分科会を開会した。

1. 2019年度就職状況(立石)

観光科 6名/10名(男子1名/女子5名)60%

鉄道科 10名/16名(男子7名/女子3名)62.5% 全体 61.5%

【就職先:一例】

観光 JTB-CWT、JBN、日本旅行サービス、TEI

鉄道 東急電鉄、JR東海、びゅうトラベルサービス、東武インターテック、JR東日本サービスクリエイション

※2018年度卒業生 退職者1名(バス会社就職)報告あり。他の卒業生に関しては順調。

2. 2019 年度カリキュラムを前期実施してみたの状況と課題報告

矢野： 昨年の分科会で「人間力」というお話を頂いた。現状 1 年前期は国家試験対策の授業がメインとなっているが、その中で「観光イベントプランニング」を取り入れた。内容としては、千葉市が主催している「千葉あそび」とのタイアップ。先日プレゼンを実施したが内容に関しては次回以降再度検討。今回の内容だと実現に向けての交渉などもなく、想像の話しでしか提案ができなかった。次回以降の構想として主催者側(例、農家など)と直接内容の交渉をして、より具体的な話を詰めていく事で、千葉市側に実現可能な案をプレゼンすると共に、より実際の仕事内容に沿った授業にしたいと考えている。「ニュースディスカッション」は後期からの始動となるが、カリキュラムの基の部分である「人間力」を取り入れた科目である。最近の学生はスポーツ・芸能など自分の興味のある部分の話はできるが、その他の時事問題への関心が薄い。そういうニュースにも目を向け、話し合う場を設けることで人間力の育成という部分につながるのではないかと考える。

また、科目の 1 つとして、鉄道科の授業内に「鉄道バリアフリー」を取り入れている。サービス介助士の資格試験が実施されているが、企業と連携し、実践的な学びができるという部分では一定の成果はあるのではないと思う。

3. 2020 年度カリキュラムを策定するにあたっての意見収集

酒井氏： 「ニュースディスカッション」の授業内容について確認したい。

矢野： 例えば新聞記事で気になる物を取り上げ、グループ分けをし、ディスカッションをする。先ほども話したが、自分の興味のある部分には強いがそれ以外の部分に対応する力が弱い。私が考える「人間力」の一番はコミュニケーション能力、臨機応変な対応を取れることだと思う。

酒井氏： 面白い授業だと思う。

矢野： 以前は似たような授業がカリキュラムに組み込まれていた。若者のニュース離れは顕著に出ている。先日の選挙の投票率などを見ても明らかだが、やはり新聞・ニュースに対して興味を持つという事は大切である。

児玉氏： 「観光イベントプランニング」とはどこまでの範囲でやっているのか。

矢野： イベントの作り方の説明から入り、I では、オープンキャンパスに来た高校生に対して「この地域で行きたいお店を紹介する」という内容を考えさせる。II では千葉あそびの実際にあるプランを見て、事前に課題などを出し、実際に行ってみたプランに関してプレゼンする。III では千葉あそびのプランを自分たちで作って発表。IV は今までの知識を生かし、卒業旅行を企画するという内容で進める予定。III に関しては次年度内容を改善していく予定である。

児玉氏： 散漫なカリキュラムに見えるが、話を聞くと、現場に出て働くにはこのくらい色々な内容をやらないといけないと思った。特に「ニュースディスカッション」については今後の為にも必要な科目だと思う。会社でも 1・2 年目の若手社員に対して新聞を使って営業時の話題を作る等の実践をしている。新聞を読む子と読まない子では考え方も大きく異なるし、上の世代の人と話す時にも話の幅が広い子はニュースや新聞を読んでいる子である。そういう所からも信頼を勝ち取るなどプラスの部分が多い。旅行以外の仕事でもこれは共通すると思う。

矢野： 昔あったカリキュラムで、今もあつたら良いと思う内容はあるか。

酒井氏： 「話し方」の授業がとても印象に残っている。人前に出て話すのが得意な人はあまりいないと思うが、仕事になるとそんなことは言っていられない。当時は嫌だったが、今になって大切さがわかる授業。きれいにしゃべるとい話し方については社会人になって教えてもらえるものではない。人前で話すというのは場数が大事なので人前で話す機会は今のうちからたくさん取るべき。

児玉氏： 私もその授業は良いと思う。年を重ねるとありがたみに気が付ける。

矢野： ホテル科では電話対応の授業を取り入れている。電話の出方により企業の印象も変わってしまう。

酒井氏： 電話対応もどの業界でも通用する。

児玉氏： 電話は練習すればするだけ上手になる。是非取り入れるべき。

只隈氏： 「ホスピタリティ」が印象的。これもどの仕事につくにも大切な部分である。

ちなみに鉄道科の「ディベート入門」とはどのような内容か。

矢野： お題に対して 2 チームに分かれてディスカッションをする。最終的には裁判所で実際の裁判を見る授業である。

立石： 鉄道科は特に人前で話すのが苦手な学生が多い。

就職活動に向けても人前で話すというのは重要なので取り入れている。

只隈氏：現場においても仕切れる人、苦手な人は本当に顕著に出てしまう。

上手な話し方のできる人の手本を学生に示すことで学生も学べるのではないか。

酒井氏：人前で話すことは苦手な人が多いが、とにかく場数を踏むこと。練習することが第一。

私たちが含めて最初から上手に出来る人はいなくて、練習したかどうかで学校へのプレゼンの出来も違ってくるので、人前で話す練習は重要だと思う。

ちなみに国内管理者の合格率はどの位か。

矢野：観光 55%、鉄道 54%。全体では 54.5%である。

只隈氏：総管理者の合格率はどの位か。

矢野：現状、年に 1 人程度の合格者である。

立石：1 年時に全員が国内管理者を取るわけでもないので、現状このぐらいの人数になっている。

児玉氏：どの授業も大切だが、取捨選択は必要。昨今、業界でもコンプライアンス対策の話が多い。

学生にとっては難しい内容かもしれないがコンプライアンス、クレーム対策の授業も必要ではないか。

矢野：現状、鉄道では取り入れているので、観光科も検討したい。

立石：JATA という視点から、専門学校生の千葉での就職についてどう思うか。

児玉氏：現時点では各企業が本社での一括採用が多く、会社毎に異なるが支店での独自採用を行っている会社の方が少ないのではないか。企業としては業績がそこまで良くないのに人材が足りず、働き方改革などの影響で残業等の改善にも着手している。

中間層(30代40代)が少なく、年配者と若手との間があるからこそ、先程話した「ニュース」による話す力が重要となってくる。

また、企業によっては年配者の方が知識・経験面で優っているので、若手や新入社員には年齢に勝てる力(新しい考え方や発想など)をもっている必要があると思う。

進行矢野が分科会を閉会した。

[分科会] テーマパーク科

進行石神が分科会を開会した。

当分科会の役割確認。2019 年度のカリキュラムと軸とし、2020 年度カリキュラム検証、企業実習、学科状況を踏まえながら進行開始。

1. 2018 年度教育課程編成委員会振り返り

- ・2020 年度観光業界として東京オリンピック・パラリンピックの各企業の取り組み共有。
- ・(株)東京ドームでは 2011 年以降、社内研修制度の見直しを行っている。勤務前に全員がお叱りやご意見などの内容が確認できるようにしており、一層の環境整備を実施。
- ・学内ではサービス介助士という資格を学生全員が必須受験とし、障害やバリアフリー等の知識をつける勉強を行っている。今後は LGBT 等いろいろな方がいることを学生に学ばせる。
- ・今後業界としては労務・人事、数値管理。ビジネススキルとして「B to B」や「B to C」の考えなど、幅広いスキルの必要性。

石神：テーマパークではやはり「楽しさ」が募集の大きな要素となっている。楽しさを求めてくる学生が多い中、就職後に必ず必要となるアルバイト管理等に必須な労務・人事等の数値を学ぶ授業を毛嫌いする学生も多くバランスが難しい。

上村氏：専門学校出身の学生も多くいるが、接客が大好き！という社員が多い。しかし、社会人として必要なスキルは知っておく必要があると考えており、人事も絡めて全員へ行っている。権利と義務の中で義務を果たすことで、権利主張ができることなど、社会の成り立ちの大枠を教えるのはどうか。

当社の総合職だが、身近な問題を例題として財務について学ぶ研修を行ったが非常に良く、理解が深まったと感じている。

2. 2019 年度主な授業及び行事

石神：2 年間のカリキュラムの中で input→output していく必要があり、それに対応できるカリキュラム編成を行っている。またトラベル系の学科から独立したこともあり、旅行要素が多く入っていたものを数年かけて変更し、現在はテーマパーク要素の強いカリキュラムとなっている。

上村氏：「ボイストレーニング」は非常に良い科目だと思う。当社でもアナウンスの発声方法等を学ぶ研修を行ったが非常に好評だった。

茂野 : 実習等で張り切りすぎて喉をつぶす学生も多く、有益な授業である。

・芸術鑑賞

成果発表の参考演目として今年度4月にジャグリングやマジックを中心とした演目「GEAR」を鑑賞した。

・2年次成果発表

2/15(土)に向け学生主体で作品を作っている。まだ完成度は高いとは言えないが、意見を少しずつ出し合い、完成に近づいている。初年度でどこまでできるか今後検証。

石神 : とても積極的で参加意欲の高い学生と冷めた学生の差がある。今の学生は表面的。

成果発表は2年間の集大成だが、全体的な傾向として就職活動が終了した2年生は、意欲低下傾向にある。企業の方に見ていただくことでやる気も出ると思うので是非見に来ていただきたい。

上村氏 : 是非参加させていただきたい。

当社では研修→フィードバックを徹底している。フィードバックでは些細なことでも良いので褒めることとしており、OJTに入れ込むことで、自然と褒めることが出来るようになってくる。

日本人は褒めることが苦手。アルバイトトレーナー制度の中で「褒める」ゲームを取り入れ、褒めることに慣れていく。

また、別の研修では部下を褒める言葉を30個書く！という課題がある。実際に全て書ける人は非常に少ないのだが、全て埋めなければいけないというものである。部下を褒める「褒め言葉」を持つことはとても大切。

・地域貢献行事

8/27(土)・12/7(土)小学生職業体験「キッズ・ハッピープロジェクト」に必須参加。

上村氏 : 子供と話す機会があることは非常に良いこと。

アルバイトでも一人っ子が多いからなのか、子供の扱いを知らない。

3. 2020年度カリキュラム案

・バリアフリー:2018年度教育課程編成委員会でお話し頂いた内容を反映

・パークオペレーション:2年生のカリキュラム内容を一部変更

2018年度申請の職業実践専門課程テーマパーク科について、認可頂いたことを報告して閉会。

[分科会] エアライン科・語学集中科・デュアル科

1. 2019年度就職状況

エアライン科 38名中 29名内定 内定率 76%(7/31現在)

旅客サービス系 18名

旅客ハンドリング系 9名

他分野 2名(ホテル・介護)

湊 : 就職活動が例年と比較して早まっており、1年時に内定を頂いている学生がいる為、内定を頂いている学生の卒業までのモチベーション維持並びに、就職活動中の学生のケアが課題となっている。

山田氏 : 内定した学生に対して、卒業までの間に企業から課題を出す事は可能であるか。

湊 : 学生のモチベーション維持やスキルアップの為に、是非実施して頂きたい。

2. 2019年度カリキュラムを前期実施してみたの状況と課題報告

・時事研究Ⅰ・Ⅱ(1年前期・後期)

目的:最近のニュースを知る、自分の意見を持つ、ディスカッションの仕方を身に付ける

方法:その週の新聞からテーマを選出→記事の共有→ディスカッション→発表

成果:別紙参照

<委員意見>石井氏・岸本氏・山田氏

新聞やテレビを見ることが少なくなり、好きな事をピンポイントに検索する事で、その他の情報に疎くなって

いる。コミュニケーションに関しても携帯などで済ませてしまう時代なので、本授業のようにディスカッションによる他者との対話や自身の考えを発言する場を設ける事で、今後の就職活動並びに就職後の人間関係を上手く築く力が身に付くのではと考える。

3. 2020年度カリキュラムを策定するにあたっての意見収集
2019年度履修科目を配布の上意見を頂く。

〈委員意見〉石井氏・岸本氏・山田氏

現状のカリキュラムで問題無し。

次年度に関しても2.の内容を盛り込んだカリキュラムを作成し、学生の中に社会人としての心構えが持てるよう、ヒトとしての成長を促す授業を増やす事が学生・企業共に望ましいと考える。

4. その他

栗原 : グランドハンドリング業務を目指す学生への授業において、どのような知識を身に付けている事が企業として望ましいか。

山田氏 : 専門学校として、目指す職種に関する専門的な授業は必須。

しかしながら、自身の考えが言えない・行動が出来ない学生が増加しているため、人間力(明確なビジョン・コミュニケーション能力)を補い強化していく授業を取り入れる。

湊 : 現在、CAコース限定で心と体を健やかに綺麗に成長させるための『美育』授業(天声人語の書写・ヨガ等)を行っている。他コースにも取り入れることを検討。

・入学前教育として、「英文法授業ノート」の導入

以上

2019 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録(ホテル科・ブライダル科・デュアル科)

日 時	場 所	進 行	記 録
2019 年 10 月 9 日(水)	1 号館 8 階 会議室	澤田	塚本
出席者	企業側(4 名)敬称略・順不同		
	企業名・団体名	名前	学科
	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	飛田 和子	ホテル・ブライダル・デュアル
	株式会社オータパブリケーションズ	山下 裕乃	ホテル・ブライダル・デュアル
	シティパークアンドサービス株式会社	加藤 哲也	ホテル・ブライダル・デュアル
	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル・ブライダル・デュアル
議 事 録	学校側(4 名) 矢口、澤田、小園、塚本		
	澤田より分科会を開会。		
	校長挨拶(矢口) 今回は、他科と同日での調整が難しく、10 月になっての開催。		
	国の動きとして、「専門職大学」として現在 15 校の申請がある。 また、今年度「高等教育の修学支援制度」の申請を行い、本校含め 6 割の学校が対象となった。 経済的理由によって就職しか選択肢がなかった学生が、進学できるように給付型奨学金と入学金・授業料減免を 2 本柱とした施策である。		
	1. 2018 年度教育課程編成委員会の振り返り/2019 年度 教育課程について		
	澤田 : ホテル科では、ブライダル科と比べると身だしなみ(ヘアメイク)の授業がなく、以前までは特別授業(男性 4 コマ、女性 8 コマ)として行っていたが、今年度よりレギュラー化。 JMA(日本メイクアップ技術検定協会)より講師を招いて、15 コマの授業を導入。 男女で分かれての授業運営で、男子に関しては、髪型だけでなく眉のお手入れやネクタイの結び方、靴の手入れ法も含めた指導をいただいている。セルフメイク検定では 45 名中 44 名合格、10/7 就職ガイダンスでもピンを使わずヘアセットができており、成果が見られている状況。		
	前回國府様(シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル)より、留学生が 300 名近く同じ学校にいれば、交流を持たれてはというご意見をいただき、今年度より、全学科共通科目として『国際交流』という授業を導入。グループワーク・プレゼンテーションが中心の授業で、日本の良さを伝えられるような授業展開で行っている。また、「キャリアプランニング」=人生プランというお話をいただき、5 月に 2 日間の講演を受けてきた。今回 10/7 就職ガイダンスでも講演いただいた。		
	前回山下様より、スマホを使用しての授業運営をというご意見をいただいたが、まだまだ指導する立場である職員・講師陣が使いこなせていない現状もあり、またホテルの現場ではメモをとることが大切で習慣になっていることもあり、“書かなくなる”ことの怖さがある。		
	加藤氏 : 現在、ホテルカーやハイヤーで送迎の際ホテル側はモバイルをゲストに渡している。またドアマン、コンシェルジュもスマホやタブレットで道案内等ゲスト対応をしている。 ラグジュアリーホテルでは当たり前となっている。		
	小園 : 小学校でも iPad 使用の授業があるので、触れることは大切だと感じる。		
飛田氏 : きれいな字が書けなくなっている。モバイルや PC と併せて、両方をうまく使いこなしていかなければいけない時代である。			
山下氏 : 封筒の住所の書き方、文字の大きさも理解できていない現状も見受けられる。			

塚本 : ブライダル科では、新規授業として WP コース/BS コースともに昨年国家検定になった BC (ブライダルコーディネーター) 技能検定 3 級が、今回より 1 年生から受検できることになり 1 年次対策授業として年間 30 コマを導入。1 年次で 3 級を合格した学生が 2 年次に 2 級にチャレンジするシステムがまだ不十分である。学生全員のモチベーションを保つのがとても難しい。
また、海外旅行への準備・知識習得のため、「旅行市場研究」という授業も導入した。

小園 : 就職活動においては、履歴書も手書きからデータ化に変化してきている。
Web 入力エントリーも増えてきており、特にブライダル業界は 9 割近い。
学校内での企業説明会を行っており、仕事の選択肢を持たせることを重視、多様化に対応していかなければならない。ブライダル科では、1 年後期にインターンシップに行く学生が多く、公欠扱いとなるため、授業との兼ね合いが難しい。

澤田 : 早期化が進んでおり、ホテル科では海外研修を 2 月→12 月に、面接講義も半数以上が受けた。
興味がないもしくは必要ないと感じている学生に、興味を持たせることがなかなか難しい。

加藤氏 : キャリア教育の重要性はとても高いと感じている。

2. 2020 年オリンピックに向けて

澤田 : 在校生にできるボランティア活動を探している。
オリンピックに近いところで「都市ボランティア」活動や、卒業研究という授業で、前期は PC 操作や画像の取り込み、パワポの使い方などを習得するため、その中で千葉の良さを伝える内容を次年度は取り入れることを検討。

矢口 : 旅行鉄道関連では、バス・ホテルは既にオーバーブックの状況で、ドライバー含め人手不足否めない。
航空関係では無人化が進んでおり、貨物系は人手不足の現状あり。留学生の採用を検討している。

風間氏 : お客様のご要望は多様化しており、人手不足が深刻である。
新卒中途枠幅を広げているものの、長続きしない現状もあり、不安材料となっている。
オリンピックでは、テコンドー・フェンシング・レスリングの関係者の宿泊受け入れで、海外から協会関係者の視察があり、施設面スタッフ面で厳しいご指摘をいただいている。

澤田 : 2020 年実習生の受け入れと、指導すべき点があるか。

風間氏 : 例年通り受け入れに問題はない。
警備が厳しくなるため、ID 管理・受け答えについてはしっかりしてもらいたい。
現在、料飲のみの受け入れとなっているが、今後宿泊での研修生の受け入れもしていきたいと考えている。交通機関の混乱が予想されるため、可能なら近距離の学生アサインがありがたい。

山下氏 : 2020 年 7・8 月は、どの現場でも結婚式もウェディングフェアの開催もできない状況にある。
時期的にオフシーズンではあるものの、売上減は否めない。また、この時期スタッフをどのように活かすのかが課題。また、結婚式を挙げない“なし婚”が増えているが、年収 600 万円以上など富裕層をターゲットにした具体的な提案や、プランニングができる人材の育成も求められている。
八芳園ではインド人 3 千人規模でのウェディングの問い合わせがあり、海外を視野に入れたスケールを広げられる授業展開も良いのではないかと。好きなこと、得意なことを極める『オタク人間=オタクキラキラ』を作ること、個性ある人材が求められているので、興味あることを追求し、伸ばしていけるカリキュラムがあっても良いのではないかと。

飛田氏 : 2020 年 7・8 月は結婚式を行わない企業が多いが、状況がつかめていない企業もある中、いち早く情報をキャッチして対応、ご提案することが必要だと感じている。
また、BC 技能検定 2 級については、実技の試験もあるため、現場経験のない学生では現実的に厳しいと思う。

加藤氏 : 現在 5 年連続増収増益で好調である。
グループでは日本初スカイバスやスカイホップバス(乗り降り自由)が大人気である。
ホテル業界では人手不足が否めず、ファイブスター系ホテルからのオファーが殺到している。

我社はホテルマンの年収アップに繋がる様、高品質高価格戦略で利益率を重視し、有給取得も含めて環境と待遇改善を最も大事なテーマとして取り組んでいる。また現場職からハイヤー等のセールスに転身するキャリアアップの実績もあり、離職率がとても少ない原因ではないかと分析している。

飛田氏：ある千葉のホテルでは、どの職種に適しているのか、自分にあっているのかを見極めるために部署異動を多く行っている。そのため、学生として好き嫌いなく幅広い知識を学び、習得させることが良いのではないか。

風間氏：入社1年目の新入社員は、各部署ローテーションで経験させている。
ウェディングプランナーに関しては、できれば固定したい思いがある。

3. 次年度に向けて

飛田氏：和装への人気が集まってきているので、和装を実技だけでなく知識も学んで身につけてほしい。

風間氏：検定試験に関しては、サービス介助士など他校よりも意識が高く、資格を持っている印象がある。
検定を取得して、ホルダーにすることなく、現場で生かし武器となるようなアフター講座などがあるとより良いのではないか。

矢口：今後、各科の授業や、卒業研究・成果発表を聴講いただくことも検討していきたい。

進行澤田により閉会。

次回:2020年2月21日(金)予定

2019 年度第2回教育課程編成委員会議事録(ホテル科・ブライダル科・夜間部デュアル科)

日 時	場 所	進 行	記 録
2020年2月21日(金)	8号館 3F ホテル実習室	澤田	塚本
出席者	企業側(4名)敬称略・順不同		
	企業名・団体名	名前	学科
	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	飛田 和子	ホテル・ブライダル・デュアル
	株式会社オータパブリケーションズ	山下 裕乃	ホテル・ブライダル・デュアル
	シティパークアンドサービス株式会社	加藤 哲也	ホテル・ブライダル・デュアル
	ホテルニューオータニ幕張	風間 昭彦	ホテル・ブライダル・デュアル
議 事 録	学校側(4名) 矢口、澤田、小川、塚本		
	澤田より分科会を開会。		
	校長挨拶(矢口) コロナウィルスの影響は観光業界にとって多大である。 学校内では現状、注意喚起をしているが、3/12に予定している卒業式の開催について懇々としている状況。		
	【各業界でのコロナウィルスの対策】		
	風間氏:ホテルエントランスにはアルコールを配置。宿泊関係は業務中マスク着用、レストランやクローク・売店等 対面するスタッフについては、除菌スプレーを徹底させたいと、マスクなしで現状対応している。		
	加藤氏:相模湾で死亡者が出たことから、その区域に立ち入ったスタッフは出勤停止中。 給与保障をする形で対応している。 バス利用は、団体・修学旅行・インバウンド含めキャンセル続き。 大手不動産会社では、マスク着用を義務化して会社が負担している。 自社は、1000人近くの職員がいるため、義務化は難しい。		
	飛田氏:ブライダル業界では、ある会場から1週間以内に中国に行ったスタッフは出入り禁止と指示があった。 ホテルからは、検温とアルコール消毒徹底の指示があった。 マスク着用に関しては、本番中はしない会場がほとんどであるが、ある会場で介添・カメラマン・ボーイ長 がマスクを着用しており、衝撃的であった。		
	山下氏:マスクは、中国の福建省にはあるが、日本まで入ってこないため不足が続いている。 人材事業部は、無理な出勤はせず、自己申告制の在宅勤務を認めている。 宿泊・MICE パーティ・会議のキャンセルが相続しており、キャンセル料をいただけるか否かが 大きな問題となっている。また、ブライダルは個人宴会のため、シフトチェンジして力を入れる動きも 出てきている。 宿泊特化型のホテルは価格競争が厳しい。民泊で100円でも泊まれる施設なども出てきた。 ホテルでは、レストランでワインを50%割引で提供したり、インスポーツなど様々なアイデア を持って、提案していく動きをしている。 箱根は、今中国人はいなくて、日本人・欧米人しかいない。		
	澤田 :学校としては、注意喚起のほか振替試験を行う予定の学生が微熱で受験できなかったため、 特例として免除を認めた。		
	【2019年度/2020年度 教育課程について】		
	■共通科目		
	澤田 :2018年～2019年にかけて、卒業研究1→2単位に時間数を増やした。 PC操作に個人差があり、研究レポートや発表用パワポ作成などの実務で生かせるようにするため。 操作技術は上がったと思う。 また、2018年度より「国際交流」を導入。 テーマを決めてワークさせたり、留学生と授業内で交流を持てるように考えていたが、授業終了期間の 違い等もあり、次年度調整を含めて行っていきたい。		

■ 専門科目

澤田 : ホテル科

■ 2019 年度新たに取り入れた「身だしなみ講座」(前期)

先日行われたカクテルコンペのイベントでも身だしなみの成果が見られた。

■ 「バーテンダー講座」

カクテルを学生たちにベース・具材・色合い・デコレーション等考案&デッサンさせ、発表する授業。代表者 12 名は、カクテルコンペで披露。カクテルコンペは、司会・材料係等も学生達が役割分担して行う成果発表の場。

■ TOEIC・英検対策他英語のクラス分けについて

今までは、レベル分けすることに懸念があり、能力差に関係なく均等に分けていたが、担当の先生からも依頼があり、今後レベル分けをする方向で考えている。

■ 資格取得について

ホテル実務技能検定、H 検、HRS に加えて、ホテルマネジメント技能検定(国家検定)を視野に入れている。料飲の検定が多かったので、宿泊の検定強化にもなるのではないかと。まだ出来たばかりで浸透するには 5 年程かかるとのことで、2020 年は、まず職員がチャレンジして、難易度の確認含め検討していきたい。

■ 2018 年度生のカリキュラムが授業内容含め安定して良かったため、2020 年度は大幅な変更なく生かしていきたいと考えている。

塚本 : ブライダル科

■ 2019 年度に取り入れた「BC 技能検定対策」(前期・後期)

3 級を目標とし、1 年生でチャレンジさせる方向。現状、結果待ち。(2/28 合格発表予定)

■ 2019 年度より「ブライダルフォト」「ブライダルムービー」の授業を拡大。

1・2 年生と成果発表で行っているイベントでもフォトやムービー担当の学生がおり、また近年写真・映像関係に就職する学生もいるため、より知識と技術の強化を図るため。

2020 年度よりプランナーコースだけでなく、ビューティスタイリストコースも半期のみ導入する予定。

■ 2020 年度より「ブライダルフラワー」の授業を導入。

数年前まで行っていて、生花の管理問題等で廃止したが、フラワー関係に興味のある学生や就職する学生もおり、「空間コーディネーター」と併せて、ブライダル業界には必要な知識と考えているため、両コースに導入する。

小川 : 夜間部デュアル科

■ 夜間部は、ホテル・ブライダル・エアライン・テーマパークの 4 学科で構成されている。

■ ホテル科は、日中はホテルで業務をし、夜の時間帯に学校で学ぶシステムになっている。

■ 1 年生では共通科目に、2 年生では専門科目に切り替えて重きを置いている。

学力の差が激しいため、選択制の授業を取り入れている。

■ ホテル科に関して、宿泊と料飲に特化している授業内容を組み立てている。

加藤氏 : 英語のクラス分け

英語が嫌い、苦手な学生でも、切り捨てないような授業内容・運営を。好きになれるようなきっかけやアイデアを取り入れていくと良いのではないかと。例えば、ソフトを使って文章を作ることや、ポケットウォークを使用するなど。

飛田氏 : 英語のセンテンスを考えると難しいが、単語だけでもまずは知る・使って英語に触れる機会を作ると良いのでは。

澤田 : 学校内では、日本語を使わず英語を使ってお菓子を食べながらゲームなどをして楽しむ「語学カフェ」を行っている。

山下氏 : 国際化が進んでいる。

環境問題。エコに対する知識や意識をもっと図っていくこと。

学生も、社会人になっても、人間関係で悩む人が多く、この業界含め、とにかく“人”である。

LGBT、心のバリアフリーなど人や道徳、人間力をあげるための教えが、もっと必要なのではないかと。

加藤氏 : 公開授業を大学では盛んに行っている。

世界の動きをもっと知るべきだと思う。

【2020 年度企業実習について】

澤田 :就職の早期化に伴い、内定した後卒業するまでの学生のモチベーションが一つの課題でもある。企業実習について、ブライダル科は1年生の夏に1回、ホテル科は、1年生の夏と冬に1回ずつ計2回実施しているが、冬の実習については、就職活動時期でもあり、気持ちの温度感や切り替えがとても難しい。2年生の冬に時期変更の案もあって、是非ご意見をいただきたい。

風間氏:内定学生のモチベーションを保つ意味では、2年生に企業実習を行うことは良いと思うが、受け入れ側とすると、他企業に内定をしている学生の受け入れという点では、少し難しさも感じるところがある。

山下氏:ある調理学校では、1年生の5月に内定をもらった学生の例もある。
高校生が企業からもとても注目されている。

矢口 :今後、学習成果をどう計っていくか。

学校としてアビリンピック(全国障害者技能競技大会)に協力している。全国大会まで行われている。ホテル・ブライダル業界で、競技会のようなものはないのか。

加藤氏:本日傾聴させていただく「卒業研究」も、1つの成果発表ではないかと思う。

風間氏:創造力・提案力が乏しいので、そういった力をつけるとより良いと思う。

進行澤田により閉会。

2019年度第2回教育課程編成委員会議事録
 (観光科・鉄道科・テーマパーク科・エアライン科・語学集中科・デュアル科)

日時	2020年2月21日(金)	場所	8号館3F ホテル実習室	進行	湊	記録	立石他
出席者	企業側(9名) 敬称略・順不同						
	学科	企業名・団体名				名前	
	観光分野	(一社)日本旅行業協会 関東支部千葉県地区委員会				児玉 靖生	
	観光科 鉄道科	千葉都市モノレール(株)				山口 晋司	
		(株)日本旅行				石井 光彦	
		東日観光(株)				酒井 大之	
		(株)日本旅行				只隈 修一	
	テーマパーク科	イオンモール キッズドリーム合同会社				伊藤 弘美	
	エアライン科	(一財)成田国際空港振興協会				岸田 達也	
	語学集中科	(株)日本旅行 成田空港事務所				鈴木 繁	
デュアル科	(株)エコーパートナーズ				山田 将人		
学校側(9名) 矢野、立石、中山、石神、茂野、湊、北原、Wedlock、栗原							
議事録	進行：湊が委員会を開会した。 今回の教育課程編成委員会は、観光科・鉄道科・テーマパーク科・エアライン科・語学集中科・デュアル科で開催。						
	午前中に授業見学(卒業研究プレゼンテーション)を行ったうえで、午後の全体会に入った。						
	全体会議題 「授業見学を行ったうえでの感想及び今後へのアドバイス」						
	湊より改めて今回見学していただいた授業の趣旨及び概要を説明。						
	石井氏：授業時間内で限られている中で研究資料を作成していると思うが、全体として熱心に取り組んでいたのが分かる内容だった。 プレゼンテーションにおいては、ポイントを掴んでいる人とそうでない人の差が出ていた。 また、こういった発表においては是非自分の意見を表現してほしいと感じた。						
	児玉氏：どの業界、どの企業に入ったとしてもこういったプレゼンテーションをする機会があると思うので、学生にとって必要な機会だと思うし、経験することで勉強になると思う。また、仕事とリンクする要素として、こういった発表する機会や資料を作成することを楽しめるかが重要となってくる。いかに自分で「楽しみながら」仕事をするか、は入社してからも必要な要素だと思う。						
	山口氏：鉄道科学生の発表はマニアックな内容ではあったが、うまくまとめて上手に表現できていたように感じた。 今後はテーマの選定や、内容では「現状の課題」等も盛り込まれていると尚良いと思う。						
	山田氏：「好きなことであれば話せる」というのが顕著であった。仕事もそうであるが「好き」であることと「楽しむ」ことは大事である。こういったプレゼンテーションは表現が大事で、動きを付けて発表していた学生もいて良かったが、もっと多くの学生が自分からパフォーマンスをしていくことを期待したい。						
	湊：最近そういった学生が非常に少なくなっていると思う。今後の課題である。						
	岸本氏：忙しい中で学生が一生懸命に作成したというのが分かった。また、自分の好きなテーマで選ぶとプレゼンテーションもしっかり話せることも分かった。だからこそテーマ選びの重要性を感じた。漠然と決めてしまうと当たり障りのないプレゼンテーションになると思う。						
湊：テーマ選びの重要性はその通りだと思う。自分の興味あるテーマを自分で探してくる学生が少ないので、次年度についてはテーマ選びについての学生への伝え方を検討したい。							
鈴木氏：プレゼンテーションを10分でまとめるのは非常に難しい。限られている時間の中で何を言葉に							

するのか、何を伝えるかを選ぶ練習は社会に出ても様々な場面で必要になってくると思う。そういった中で今回のプレゼンテーションで、発表する状況を考え、見え方や伝えやすさを工夫するともっと良いと思う。

湊 : どうしても授業内で行う場合には、レポートを提出することが先になってしまい、今回のような発表についての指導が少なくなってしまう。今後はプレゼンテーションで何を伝えるのかを考えながらパワーポイントを作成するよう指導したい。

只隈氏 : 学生として考えたときに、パワーポイント作成や発表のクオリティが高いと感じた。あとは自分で課題を見つけて、その課題を解決するよう頑張ってもらいたい。

伊藤氏 : 今回発表したテーマパークの学生は入学後に1年生前期の授業で接しており、そこから考えると今回のプレゼンテーションでは別人のような成長を感じられた。プレゼンテーションではパワーポイントを意識しすぎているので、もっと聴講者を意識して発表できると更に良かった。

湊 : プレゼンテーション発表練習については次年度の課題にしたい。

酒井氏 : 代表に選ばれた学生だけあって素晴らしかった。次年度はゼミ内での選考も聞いてみたい。限られた時間内で想いを伝えるのは大変だと思うが、時間とのバランスが大事になってくる。

湊 : 業界の皆様から様々な意見を頂くことが出来た。

今回頂いた意見を基に次年度は相手に伝えるためのプレゼンテーションの指導にも力を入れたい。

1. テーマ選択 (興味のあるテーマを自分で考えること)

2. プレゼンテーション (相手を意識して準備や発表を行う。)

この2点を次年度の課題として進めていきたい。

[分科会] 観光科・鉄道科

進行 : 矢野が分科会を開会。

1. 最新の業界情報

只隈氏 : 南房総市は3月まで教育旅行を中止する旨を市として通達した。

その他の市町村は現在の所、正式な通達はないが今後はわからない。

旅行のキャンセルは増加している。

酒井氏 : 教育旅行全体としては、今の所は大きな影響は受けていない。ただし、これから修学旅行などのシーズンになっていくので終息に向かわないと心配である。

児玉氏 : 中国人が減っているのは確かだが、それでも中国人が1番多い。千葉は複数国のオリンピックの事前キャンプ地となっているのでそこが今後心配。会社としては、中国の事務所は在宅勤務になっているが、想像以上に中国国内は悲惨な状況との事。

山口氏 : 国から、駅員・運転士はマスク着用をすること、伝達があった。今後心配なのは運転士の確保。国からは何があっても対応できるよう運転士免許を持った非現業の職員も対応できるように訓練を積むよう指示があった。客足は今の所変わらず。マスクの着用率は増加している。会社としては、家族がインフルエンザに感染した場合は社員も休暇を命じている。

石井氏 : 会社所属の添乗員がダイヤモンド・プリンセス号に2名乗船中。連絡は取れているが、乗客が下船しないと下船できないとの事。添乗は3・4月分で売り上げ40%ダウン。SARSのときは60%ダウンだったので、会社としてはそこまで落ちることを見越して対策を講じる予定。今後は、口コミによる風評被害が怖い。

2. 2019年度就職状況→就職担当立石より継続報告

(1) J2は全員進路決定。(専門アルバイト1名→中途採用を目指す)

(2) アルピコ交通は学校初の内定を頂いた。長野での事前体験ツアーを実施して頂き、学生の気持ちが固まったようだ。

(3) 観光科の学生が少ないため、企業から頂く求人に対してご紹介できる学生を出せなかった。学生数に関しては、学校として今後の課題である。

(4) 鉄道業界の就職は基礎学力が必要。JR四国、富山地方鉄道、三陸鉄道、横浜市営地下鉄などから求人アプローチがあるがこちらも送り出せる学生が少ないのが現状。

(5) 夏前にはほとんどの学生が内定。学校として今後は行事を含め、時期の再考が必要だと感じる。

3. 2019年教育課程編成委員会振り返り

・「観光イベントプランニング」の取入れについて

実現に向けての交渉などもなく、想像の話しでしか提案ができなかった。次回以降の構想として主催者側（例、農家など）と直接内容の交渉を上げたが、現在オニオン新聞社を通じて話合中

・「ニュースディスカッション」

人間力として「ニュースディスカッション」を後期授業から導入。学生のニュースに対する姿勢が変わり、話題など話し合えるようになったと感じる。今後も継続予定

・「ホスピタリティ」 どの仕事につくにも大切な部分である。今後も共通科目として継続

・「ディベート入門」 お題に対して2チームに分かれてディスカッションをする。

最終的には裁判所で実際の裁判を見る授業、今回は特別に裁判官から数名の生徒が質問されたと聞いている。授業開始来初めてとの事。数名が立派に回答していたと聞いている。

・国内旅行業務取扱管理者

2019年度結果 観光科 50%（前 55%）、鉄道科 39%（前 55%）

・総合管理者 台風により 3/15 へ延期 数名が受験予定（多くて3名を想定）

4. 2020年カリキュラム

観光イベントプランニング→観光プランニングに変更

観光科に手話講座を導入

→次年度については夏の教育課程編成委員会にてお話を聞かせていただく。

5. 学生について

新1年生 観光 17名、鉄道 19名（2020/2/20 現在）

6. その他

立石：就職について、履歴書・ESがどこまでみられているのか、また面接時のポイントなどがあれば伺いたい。

只隈氏：客観的な目線で見ると人事以外の社員が面接に入るようにしている。

酒井氏：本当に当社に入りたいかを会話の中から見ている。やる気があるのが最低条件。

児玉氏：履歴書の内容はどの学生も書いてくることはほとんど同じである。内容でプラスになる部分として、強いてあげるなら英語の能力（TOEIC/英検）・これまでのリーダーとして残してきた実績位かと。インターネットの普及で当たり前のことを言う、書く学生が多い。現場の社員の人数としては足りていないのが現状。補うためには中途採用も積極的に活用。新卒の学生は中途の方との争いも今後は必要になる。

山口氏：採用方法を変える転機かもしれない。新卒主義というのが崩れてきている。7～8年目で他社に移る社員というのが多くなってきている現状もあるので。専卒に関しても今までは高卒と賃金の差はほとんどなかったが、今後は大卒に近い賃金を提示しないと来てもらえないと感じている。履歴書、ESに関しては当社は説明会参加者にのみ渡している。（WEBでは出せないようにしている）直筆で書いてもらいたいという願いがある。書いた内容をみれば思いは伝わるので。

石井氏：当社は様々な職種の採用形態があるので、専門卒で直接入社するのは条件的に難しいかもしれない。会社としては、契約社員で採用し、1年後を目安に社員登用をしている。ここ2年は26名・22名と多くの方が正社員に登用されている。履歴書をみるのは1次、2次面接位までかなと感じる。人間力重視の採用をしている。

矢野：最後に、昨年の研修旅行の学生評価について。天災の影響を受け、移動は大変だったが、旅行自体の満足度は高かった。来年度は以前のように観光科は海外、鉄道科は国内となる予定だが、一定の成果は得られたと考えている。

進行矢野が分科会を閉会した。

[分科会] テーマパーク科

進行：石神が分科会を開会。

1. 2019年度教育課程編成委員会振り返り

(1) 2019年度カリキュラムに関して

カリキュラム内で input→output していく必要があり、それに対応できる編成を行っている。

またトラベル系の学科から独立したこともあり、旅行要素が多く入っていたものを数年かけて変更。現在はテーマパーク要素の強いカリキュラムとなっている。

前回の委員会では㈱東京ドーム 上村様からは新カリキュラムの『ボイストレーニング』の評価を頂いた。東京ドーム内の研修でもアナウンスの発声方法の研修は好評だったとお伺いした。

(2) 2年次成果発表に関して

2/15(土)に学生主体の第1回目の成果発表を行った。積極的で参加意欲の高い学生と冷めた学生の差が大きく。就職活動が終了した2年生は、意欲低下傾向にあるので主体性を持って取り組むことに関しては今年度成果を得られたが学生間の人間関係トラブルが多かった。

(3) 行事に関して

地域貢献行事：8/27(土)・12/7(土)小学生職業体験行事「キッズ・ハッピープロジェクト」に参加。カリキュラム内で子供と話す機会があることに関する出席いただいた上村様に納得して頂いた。

2. 2020年度 カリキュラム案

(1) カリキュラムに関して説明

① 新規導入科目

電話対応ベーシック及びカラーコーディネート説明

② 一部変更

イベントプロモーション：常勤職員からボイストレーニング等を担当する講師の職員が担当。舞台や音楽・表現ができる職員に一任する。

③ キッズハッピー及び成果発表の内容を報告する。

(2) 現在のテーマパーク業界に関して(伊藤様)

① コロナウイルス感染拡大に伴い「マスク装着」対応となる。

② 他の室内テーマパークではサーモグラフィーカメラを導入したパークもあるとのこと。

③ お子様より異性の服を着用したいとの要望を承諾するようになる。LGBT対応の一環

(3) その他

① 当校で髪毛が色のついている学生が入学してくるが研修・実習での受け入れは可能であるかを確認する。社内に持ち帰り事案検討の上、連絡をもらう。

② カンドゥーテーマパーク見学会3月26日(木)

③ 1年生カンドゥー研修5月11日・18日・25日

進行石神が分科会を開会した。

[分科会] エアライン科・語学集中科・デュアル科

進行：湊が分科会を開会。

1. 2019年度就職状況

エアライン科：38名中38名内定 内定率100% (2/21現在)

(内1名 進学、専門アルバイト 2名)

*グランドスタッフ内定者が多い

*内定地区：成田地区 9割、その他(羽田・関西)1割

語学集中科：16名中16名内定 内定率100% (2/21現在)

エアライン系：11名 その他飲食・旅行系：5名

2. 2020年度各科入学生

エアライン科 キャビンアテンダントコース 4名

エアポートサービスコース 26名

エアポートカーゴコース 10名

エアライン科合計：40名予定

語学集中科 12名

3. 卒業研究 各ゼミ発表内容

○湊ゼミ：日本・アメリカ・フィリピン行事の過ごし方の違い

○北原ゼミ：成田空港にある免税店3社の違い

- 葉原ゼミ：TPP について
- Ryhs&Robert ゼミ：ONE DIRECTION (アーティスト)

【企業からの感想・アイデア】

- 山田氏：日本の LCC 企業のこだわり、成田と羽田の徹底比較
興味を持って調査した方とそうでない方の差が大きい。
- 岸本氏：LCC バスとリムジンバスの比較
どんなテーマでも比較をさせると面白いかも。
- 鈴木氏：時期・文化・風俗による各国との比較
学生ならではの視点で面白かった。
- 湊：作成に注視しすぎて、プレゼン方法、今後の自分にどう活かせるかまでは指導が行き届いて
いなかった。テーマ選定の際、漠然としたテーマではなく、自身が目標としている業界や
その他興味を持って調査が出来るテーマを選ばせる事が今後の課題。

4. 各業界状況

【コロナウィルスによる状況】

- 山田氏：マスク着用、自社作除菌スプレーを従業員へ配布し、予防を促している。
- 岸本氏：NAA からマスク着用の通達が入り、実施中。
- 鈴木氏：添乗員・空港カウンター業務の方々へのマスク着用を必須としている。
マスクをしていないと入国できない等、最新情報の周知や旅客に対する渡航履歴アンケート
を実施しており、業務量が増加している。
- 全者：現在、入国者に対する検温やアンケートは行っているが、出国者に対しては特別な対応は
行っておらず、自社内で感染者が出た際の対応・ガイドラインなども不透明である為、今後
国内感染者が増加した場合、どのような対応になっていくか不安。

【成田空港離発着時間変更による影響】

- 全者：勤務時間が比例して伸びており、京成・JR・バス共に運行時間が延長されているが、
時間の融通が利かず不便。

5. 2020 年度履修科目について

【変更・追加箇所】

1. 授業名：『Japanese Culture』 ⇒ 『外客接遇』へ変更。
2. エアポートサービスコース ⇒ 2 年生後期よりエアカーゴ入門の授業実施。

6. その他

- 全者：前述のコロナの影響が甚大で、旅客・貨物共に大幅減少。
終息時期が不明であることから、2021 年度の採用については企業・業種によっては大幅
に減少する可能性がある。

進行湊が分科会を閉会した。